

貸借対照表のモデル

《ある屋台ラーメン店の例》

貸借対照表の数字を、より身近に実感してもらうための、シンプルな数値モデルです。概念説明用のシートと合わせて、活用してください。

● インストラクション手順例

1) (OHP を参照するか、各自にシートを配布)

2) (貸借対照表の概略を説明後)

「では、貸借対照表の数値がどのような意味を持っているかについて、具体例を使って考えてみましょう。

あなたは、屋台のラーメン店を経営することになったとします。オープン時の貸借対照表を記入してみましょう」。

… (以下、シートに沿って説明)

「さて、ラーメン店を経営して1年が経ち、決算の時期がやってきました。

どのような状況になったのか、数字を記入してみましょう」。

… (以下、シートに沿って説明)

■ 貸借対照表：練習問題

■ 期首

[資本・負債の部]

屋台のラーメン店を開くにあたって、あなたはこれまでコツコツ貯めた170万円の貯金をおろし、元手にすることにした。

しかしまだ足りないので、さらに100万円の借金をした。元手は合わせて270万円になった。

[資産の部]

180万円で屋台を手に入れ、60万円で調理器材を揃えた。そしてラーメンを作るための材料を10万円分仕入れた。この時点で手元には20万円の現金が残った。あとはオープンを迎えるばかり。



■ 期末

[資本・負債の部]

1年が経った時点で、20万円の利益が残った(剰余金)ので、これを元手に組み入れることにした。借金は2割を返済した。仕入代金の内、10万円は来期(来年)に払うことにしている(未払金)。

[資産の部]

期末時点で材料は20万円分、現金が40万円あった。減価償却をしたので、屋台は130万円に、調理器材は55万円となった。さらに今期は事務処理用に35万円のパソコン(固定資産)を買った。

[期首の状態]

資 産	(流動資産)	負 債	
	(固定資産)		資 本
総資産		総資本	

[期末の状態]

資 産	(流動資産)	負 債	
	(固定資産)		資 本
総資産		総資本	

■ 貸借対照表：解答

[期首の状態]

資 産	(流動資産)	負 債	・借金 100万
	・材料 10万 ・現金 20万		
資 産	(固定資産)	資 本	・資本金 170万 (元手)
	・屋台 180万 ・調理機材 60万		
総資産 270万円		総資本 270万円	

[期末の状態]

資 産	(流動資産)	負 債	・借金 80万 ・未払金 10万
	・材料 20万 ・現金 40万		
資 産	(固定資産)	資 本	・資本金 170万 ・剰余金 20万
	・屋台 130万 ・調理器材 55万 ・パソコン 35万		
総資産 280万円		総資本 280万円	